

請願第14号

街ぐるみで子どもを孤立から守り育む体制づくりについての請願

提出年月日 令和2年(2020年)8月28日

請願者

宝塚こども応援プロジェクト

紹介議員 宝塚市議会議員 大島 淡紅子

同 たぶち 静子

同 となき 正勝

同 梶川 みさお

請願の趣旨

今、地域の繋がり希薄化や核家族化の中で、子育ての“孤立”が深刻であることは周知のとおりですが、コロナ感染症対策として行われた休園休校措置や外出自粛は、子どもたちを更に孤立させました。

3月から6月という長期間、遊びや学びの場から突如切り離され、公園や街に出かける事も出来ず、給食も完全に止まり、全ての子どもたちが大変な思いをしていた中、私たちは困っている子どもたちを少しでも応援できればと、地域の方の力も借りながら「子ども弁当」の販売を行いました。しかし、私たちの力で出来た事は小さく、情報さえ届かず自分の力で出掛ける事も出来ない“孤立”状態にあった子どもの元には、お弁当を届ける事はできませんでした。

今回のコロナ対策だけでなく、日常の中でも、また今後起こり得る災害等の社会的非常時にあっても、宝塚市が、子どもたちに関わる学校園や地域と信頼関係を持って連携し、「街ぐるみ」で地域の大切な子どもの健やかな育ちを支える事ができるよう、具体的で柔軟な体制づくりを早急に進めるため、以下の項目を請願致します。

請願の項目

- 1 支援が必要な子どもの“孤立”を見逃さず、子どもが地域社会の中で愛され、自立に向けて健やかに育っていけるよう、学校園や地域と連携し、配食や市内の飲食店や子

ども食堂等で使える弁当券を配布する等、具体的な支援体制づくりが必要であり、その為「要保護児童対策地域協議会」(要対協)の仕組みがあると考えます。孤立する子どもに、具体的な支援が届くよう、行政に体制づくりの強化を求めてください。

2 今、宝塚市は子どもに関する課が多くある一方、どこの課が何を担当しているのかが大変わかりにくい現状があります。

そこで、市民が子どもに関わる相談をする時、適切な課に案内できる“子ども総合窓口”のようなものが必要ではないでしょうか。

困っている市民が相談しやすく、親切で分かりやすい対応ができる組織の整備を行政に求めてください。